

東京12号線

延伸の意義

県南西部と都心部とのアクセス利便性の向上、既設路線の混雑緩和、並行する既設路線の代替経路の確保 他

課題と取組の方向性

課題1 将来のまちづくりの方針と所沢駅のポテンシャルを意識した計画の作成

→ 立地適正化計画における中核的なエリアや居住エリア、既成市街地への影響、所沢駅までの公共交通の利便性向上を意識した計画を検討する。

課題2 事業性の確保と幅広い事業効果の検証

→ 新駅周辺のまちづくりの推進、建設コストの精度向上を図るとともに、地域社会、地域経済への効果等についても検証する。

課題3 延伸ルートの特査

→ まちづくりの中での鉄道の位置付けを踏まえ、複数ある延伸ルート案について技術的検討を行うとともに、ルートを絞り込み、特査を進める

課題4 混雑率上昇への対応

→ 既設線の輸送力についての技術的な検討を行い、具体的な混雑緩和対策とともに、東京から埼玉方面への逆方向の移動需要創出につながるまちづくりを検討する。

課題5 東京都と連携した整備手法の具体化

→ 光が丘からの一体整備など、具体的な事業スキーム等について、東京都と連携を図り、検討を進めていく。

課題6 国の次期交通政策審議会への対応

→ 国や東京都などの動向も踏まえ、次期交通政策審議会に向けた工程を共有し、関係自治体と県が連携して検討する。

東京8号線

延伸の意義

県東部と都心部とのアクセス利便性の向上、並行する既設路線の代替経路の確保、沿線地域の魅力向上 他

課題と取組の方向性

課題1 路線全体を意識したまちづくりの推進と東埼玉道路との連携

→ 延伸区間全体でまちづくりと延伸計画を検討するとともに、並行する東埼玉道路との、バス等を活用した連携手法について探っていく。

課題2 事業性確保に向けた取組の推進

→ 沿線自治体が連携し、まちづくり計画の深度化、計画全体の技術的検討を行うとともに、大規模施設等への受益者負担の検討、建設コストの特査、その他の効果の検証を進める。

課題3 速達性と利便性のバランスを考慮した延伸ルートの検討

→ まちづくりの中での駅の役割を踏まえ、適切な駅の数や位置、効果的、効率的な延伸ルートを検討し、特査を進める。

課題4 他都県と連携した整備手法の具体化

→ 東京都や千葉県状況を注視しつつ、沿線自治体と連携し、押上-野田市の全区間の事業化について、具体的な事業スキームを検討していく。

課題5 国の次期交通政策審議会への対応

→ 国や東京都、千葉県などの動向も踏まえ、次期交通政策審議会に向けた工程を共有し、関係自治体と県が連携して検討する。

次期答申（令和13年頃）に向け、課題解決を目指す

## 日暮里・舎人ライナー

### 延伸の意義

移動需要は高いが、公共交通が十分でない延伸想定地域における交通利便性の向上 他

### 課題と取組の方向性

#### 課題1 延伸ルートや交通モードごとの延伸意義の再確認

→ 延伸ルート案ごとにB/Cの算定し、事業性を確認するとともに、沿線自治体のまちづくり方針や公共交通の現状、移動需要等から、新たな交通システムの導入可能性についても調査・検討する。

#### 課題2 既設線の混雑率上昇への対応の検討

→ 延伸ルート案ごとに、既設線を延伸する場合のネットワーク分析を行い、混雑率という観点で延伸後の状況を検証するとともに、既設線の終点からの延伸以外の方策についても検討する。

#### 課題3 道路部門と連携した検討

→ 既設線延伸又は新たな交通システム導入の必要性を整理し、手法やルートについて道路部門とも連携して検討する。

#### 課題4 国の補助制度活用の検討

→ 交通政策審議会へ事業提案をする場合に必要な道筋を整理するとともに、地元の更なる機運醸成を図っていく。

## 多摩都市モルール

### 延伸の意義

延伸想定地域の住民と地域を訪れる観光客の交通利便性の向上、地域活性化 他

### 課題と取組の方向性

#### 課題1 観光の視点を意識した延伸ルートや交通モードの検討

→ 延伸ルート案のB/Cを算定し、ルートごとの延伸の意義・効果を再確認するとともに、観光需要の観点から、新たな交通システムの導入可能性についても調査・検討する。

#### 課題2 道路部門と連携した検討

→ 既設線延伸又は新たな交通システム導入の必要性を整理し、手法やルートについて道路部門とも連携して検討する。

#### 課題3 観光関係者と連携した検討

→ エリア全体で価値を上げ、税収を補っていくエリアマネジメントの視点を持って、観光調査なども参考にし、関係者と連携を図りながら検討を進める。

#### 課題4 資金調達手法の検討

→ 交通政策審議会へ事業提案をする場合に必要となる道筋を整理し、検討を進めるとともに、地元関係者の更なる機運醸成を図る。併せて、PPPやクラウドファンディングなど、民間資金の活用についても広く検討する。

既設線延伸の意義を確認するとともに、新たな交通システム導入も検討